日本学術会議「言語・文学委員会」
言語コミュニケーションと共生分科会（第26期・第8回）議事録

日時：令和7年7月5日（水）15時30分～18時30分

場所：神戸大学国際文化学研究所（鶴甲第1キャンパス）B313 教室及びオンライン会議システム併用のハイブリッド開催

出席者（敬称略・五十音順）：木部暢子、金水敏、小泉政利、小西いずみ、定延利之、傳康晴、林良子、堀江薫、宮本陽一、以上9名。

議題（1）前回議事録要旨の確認

（2）言語コミュニケーションと共生に関する検討

（報告①「流暢性障害（吃音）の実態：支援者の立場から」、報告②「吃音があっても、豊かに生きる～吃音のある人への社会的支援への取り組み～」）

（3）その他

（1）前回議事録要旨の確認

令和7年3月5日に開催した「言語コミュニケーションと共生分科会」（第26期・第7回）の議事要旨を確認し、承認した。

（2）言語コミュニケーションと共生に関する検討

報告①「流暢性障害（吃音）の実態：支援者の立場から」、報告②「吃音があっても、豊かに生きる～吃音のある人への社会的支援への取り組み～」を受け、議論をおこなった。

講師：報告① 酒井奈緒美氏

（言語聴覚士）

報告② 斉藤圭祐氏

（NPO 法人全国言友会連絡協議会理事長）

（3）その他

話す言語（手話なども含む）や、話し方に由来する不平等や、周囲とのコミュニケーションがうまくとれないという人々の悩みを軽減・解決するために、当分科会として目指す意思の表出を「見解」とした。

以上